

iTesting チャンネルによる HIV 検査体制の構築と確立のための研究

研究分担者：金子典代（名古屋市立大学大学院看護学研究科 国際保健看護学）

研究要旨

本研究は現行の HIV 検査体制に加えて様々な異なる形態の HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進める。

令和 6 年度は、アウトリーチグループとしては、検査の広報（SNS での発信・動画配信・多言語対応）、検査会を評価するための受検者アンケートの解析を行った。

受検者に WEB 上での自身の結果サイトへアクセスする前に、任意で WEB 上での受検者アンケートへの協力を依頼した。令和 4-5 年度にかけて、アンケート協力率が低下の一方であったため、一部の質問項目をプログラムの効果評価のために回答必須とした。その結果、令和 6 年度は、各回において、必須項目についてはほぼ全数の回答を得ることができた。第 1 回は 347 名、第 3 回は 365 名、第 2 回代替検査会は 342 名からの回答を得た。行政のプログラム評価とするために、回答必須の項目を設定したことで、より偏りのないデータの収集が可能となった。

受検者アンケートの解析の結果、本検査会は、HIV 感染報告数が最も多い 40 歳未満の層、セクシャリティについては、ゲイ、バイセクシュアル、異性愛者、その他のセクシュアリティと多様な受検者の来場があったことが示された。また外国籍の受検者も 4-6% の来場があることが確認できた。この割合は、名古屋市の外国籍者の割合より多く、あらゆる資材について多言語対応を行い、外国籍のアウトリーチに重点を置いてきた成果と言える。今後希望する検査の形態については、土曜日もオープンしている病院、クリニックやコミュニティセンターでの検査の希望割合が高かった。またこういった検査会は、リピーターが増えることが先行研究からも示されているが、3 年目を迎えた今でも、はじめて本検査を利用する受検者の割合も毎回伸びていることが確認できた。

A. 研究目的

本研究は現行の HIV 検査体制に加えて様々な異なる形態の HIV 検査を実践し、より受検者にとっても医療従事者にとっても受検/施行可能な検査の導入を進める。最終的には、マニュアル策定を目指す。

令和 6 年度は、アンケートについては、一部の項目は検査会の評価のために回答を必須とし、データの集積を行った。

B. 研究方法

アウトリーチグループ：HIV 検査の重要性を説明した啓発資材の作成および設置、検査の広報（SNS での発信・動画配信・多言語対応）、検査を評価するためのアンケートの作成（多言語対応）・解析、各コミュニティでの啓発活動を行った。また検査会の広報については、様々な手法を組み合わせ利用し、時期に応じて使える広報手段（地下鉄広告等）も活用し、評価を行った。

研究では 2024 年度の全 3 回にわたり実施してきた受検者への質問紙調査データを解析した。2024 年度から回答必須とした項目は、性別、年齢、居住地、国籍、感染が心配な出来事、これまでの HIV 検査受検経験、過去 1 年間の HIV/STI の検査受検経験、検査会を知った情報源、受検理由、過去 1 年間に利用した検査場所、検査回数、iTesting の利用経験である。任意項目は、セクシャリティ、利用した施設、STI の既往、今後検査を希望する場所である。

（倫理面への配慮）

検査は予約からすべて匿名検査で行っている。またアンケート調査も匿名検査で行い、名古屋医療センターまたは名古屋市立大学の研究倫理審査を受けて行う。受検者アンケート調査については令和 4 年度に名古屋市立大学看護学研究科の倫理審査を受審の上実施している。

C. 研究結果

＜受検者アンケートの実施＞

受検者に WEB 上での結果サイトへアクセスする前に、任意で WEB 上での受検者アンケートへの協力を依頼した。令和 6 年度の第 1 回の検査会では、347 名が回答し、第 3 回の検査会では、365 名が、代替検査会では 342 名がアンケートに回答した（表 1）。

表 1. 検査会の受検者、予約数、アンケート回答率

R4 第1回検査会(6月26日(日)) ・受検者数 246 名(予約数 300 名、キャンセル率 18%) ・結果確認済み受検者 245 名 ・アンケート回答者数 189 名、回答率 76.8%
R4 第2回検査会(9月4日(日)) ・受検者数 270 名(予約数 340 名、キャンセル率 21%) ・結果確認済み受検者 270 名 ・アンケート回答者数 180 名、回答率 66.7%
R4 第3回検査会(12月4日(日)) ・受検者 286 名(予約数 341 名、キャンセル率 16.1%) ・結果確認済み受検者 286 名 ・アンケート回答者 187 名、回答率 65.4%
R5 第1回検査会(6月25日(日)) ・受検者数 315 名(予約数 341 名、キャンセル率 10%) ・結果確認済み受検者 315 名 ・アンケート回答者数 200 名、回答率 63.5%
R5 第2回検査会(9月3日(日)) ・受検者数 303 名(予約数 341 名、キャンセル率 13%) ・結果確認済み受検者 303 名 ・アンケート回答者数 175 名、回答率 57.8%
R5 第3回検査会(12月10日(日)) ・受検者 316 名(予約数 350 名、キャンセル率 9.8%) ・結果確認済み受検者 315 名 ・アンケート回答者 185 名、回答率 58.8%

R6 第1回検査会(6月30日(日)) ・受検者数 347 名(予約数 400 名、キャンセル率 13%) ・結果確認済み受検者 347 名 ・アンケート回答者数 347 名、回答率 100%
R6 第2回検査会(9月1日(日)) 悪天候のため中止
R6 第3回検査会(12月8日(日)) ・受検者 368 名(予約数 400 名、キャンセル率 8%) ・結果確認済み受検者 365 名 ・アンケート回答者 365 名、回答率 100%
R6 第2回代替検査会(2月2日(日)) ・受検者 344 名(予約数 400 名、キャンセル率 14%) ・結果確認済み受検者 342 名 ・アンケート回答者 342 名、回答率 100%

令和 6 年度の 3 回分受検者アンケート回答の各回の回答分布は巻末資料 1 に示すとおりである。

1. 受検者の背景

性別は、いずれの回も男性の方が女性より多く、全回において 75%以上を男性が占めていた。年齢は 39 歳以下が 6 割を占めていた。セクシュアリティはゲイバイセクシュアルが合わせて 40－50%を占めていた。居住地は、6 割近くが名古屋市内居住者であり、外国籍は 3.5－5.8%を占めていた。

2. 感染が心配な出来事、検査経験、検査会を知った情報源

感染が心配な出来事については、異性との性的接触が 50－60%を占めていた。回により異なるが、同性との性的接触を挙げたものが次いで多く、38－53%を占めていた。

これまでの HIV 検査経験があるものは、34－68%、受検経験があるもののうち、過去 1 年に検査を受けたものは、59－69%であった。

本検査会については、名古屋市のホームページを挙げたものが最も多く、インターネット広告や市営地下鉄内の広告が続いて多かった。

3. 受検理由

iTesting 検査会を知った場所については、名古屋市ウェブサイトが最も多く、市営地下鉄

広告が続いて多かった。

4. iTesting のこれまでの受検回数

今回がはじめての iTesting の受検である割合は、53%、58%、64%と回を追うごとに高くなっていった。

5. 今後、希望する HIV 検査の形態

今後希望する検査については、いずれの開催回においても、土曜日でもオープンしている病院、クリニック、コミュニティセンターでの検査の希望割合が高く、平日夜もオープンしている病院、クリニックでの検査が続いた。

D. 考察

今後希望する検査については、コミュニティセンターでの検査、土曜日でもオープンしている病院、クリニックが多かった。平日夜オープンの医療機関よりも土曜日でもオープンしている医療機関が HIV、STI の検査受検先としてニーズが高いことが示された。コミュニティセンターでの受検希望も高かった。HIV 検査や STI 検査については、特別にプライバシーが配慮される場所でなくとも、身近な施設で提供しても利用者がいる可能性が示唆された。

E. 結論

令和 6 年度も全 iTesting 検査会で受検者アンケートを実施した。行政のプログラム評価とするために、回答必須の項目を設定したことで、より偏りのないデータの収集が可能となった。

今後希望する検査については、土曜日でもオープンしている病院、クリニック、コミュニティセンターでの検査の希望割合が高かった。はじめて利用する受検者の割合も毎回伸びており、広報等の工夫により、リピーターが増え続けることは回避できることが確認できた。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Yusi Riwayatul Afsah, Noriyo Kaneko: Exploring Cervical Cancer Screening Awareness, Beliefs, Barriers, and Practices Among Indonesian Muslim Women in Japan: A Qualitative Study. BMC Public Health, 2025 Mar. accepted
2. 金子典代, 今橋真弓, 吉田理加, 羽柴知恵子, 清枝求美, 石田敏彦, 横幕能行: 名古屋市性感染症検査会の男性受検者の背景, 検査会

を知った情報源, 今後希望する HIV 検査. 日本エイズ学会誌, 27(3). 2025 年 3 月. 受理済

3. Kaneko Noriyo, Hill Adam Orlando, Shiono Satoshi. Factors associated with help-seeking regarding sexual orientation concerns among Japanese gay and bisexual men: results from a cross-sectional survey. BMC Research Notes, 17, 117(2024).

4. 高久道子, 金子典代, Myagmardorj Dorjgotov, Naympurev Garjanjants, Erdenetuya Gombo, 塩野徳史, 市川誠一. モンゴルの Men who have sex with men (MSM) における HIV に対するスティグマ低減を目指した啓発プログラムへの参加と HIV 検査行動との関連. 日本エイズ学会誌, 26(1), 22-30, 2024.

5. 金子典代, 健山正男, 和田秀穂, 高久陽介, 宮城京子. HIV 治療通院中の MSM における急性感染期の医療機関の受診, 受診先での HIV 検査の受検, 性感染症の既往. 日本性感染症学会誌, 34(1), 99-101, 2024.

2. 学会発表

国内

1. 金子典代. Special Symposium on Community-led Monitoring of HIV services. 国際シンポジウム. 第 38 回日本エイズ学会, 2024 年, 東京.
2. 高久道子, 金子典代, 石田敏彦, 藤浦裕二, 塩野徳史. 東海地域におけるゲイ・バイセクシュアル男性を対象にした HIV/STI 検査行動と啓発普及方法の検討. 第 38 回日本エイズ学会, 2024 年, 東京.

G. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

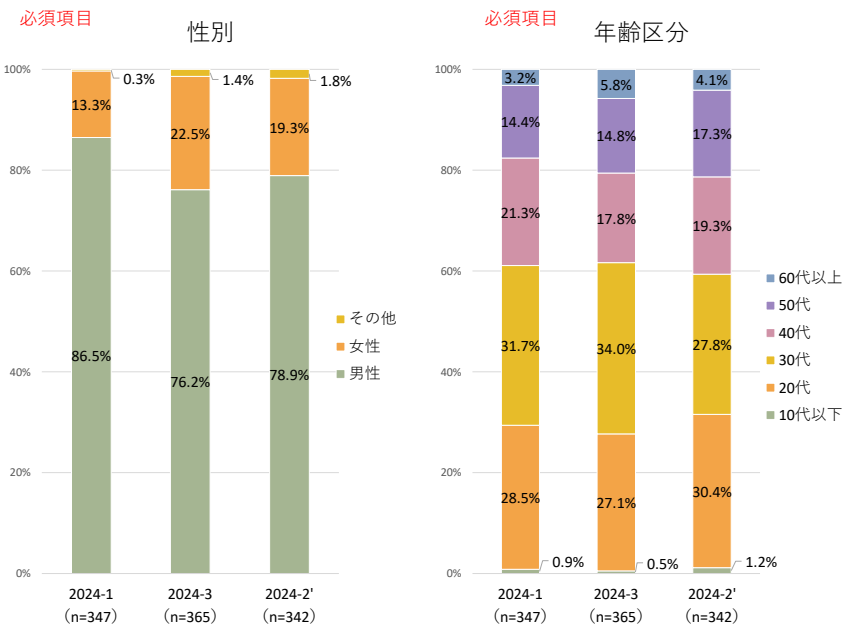
添付資料 1

iTesting受検者アンケート調査
2024年度

第1回検査会 6月30日（日）
第3回検査会 12月8日（日）
第2回代替検査会 2月2日（日）

2024年度から、行政検査の効果評価のため、検査結果
にアクセスする前のアンケートとして、
多くの項目について回答必須と変更した

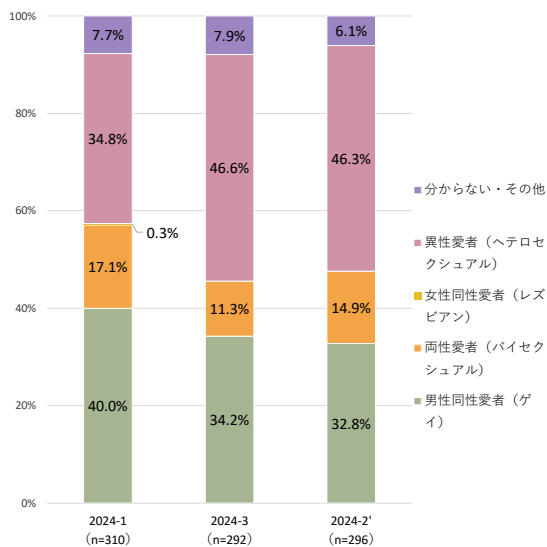
1



2

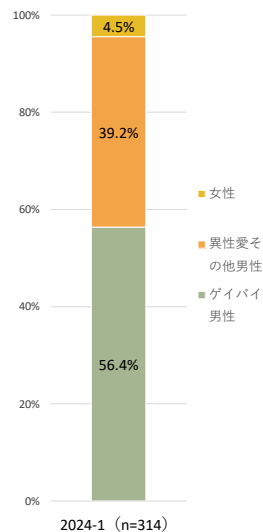
任意項目

セクシュアリティ



任意項目

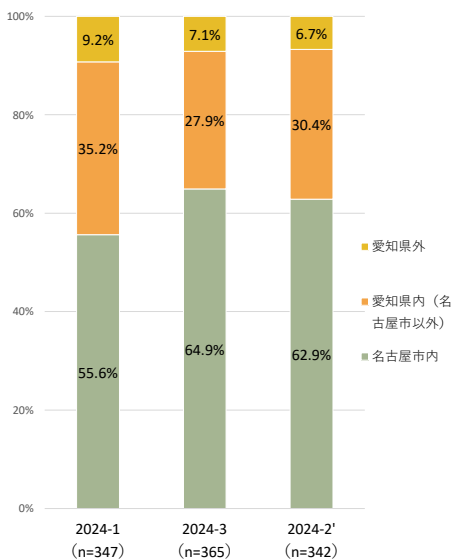
セクシュアリティ 3区分



3

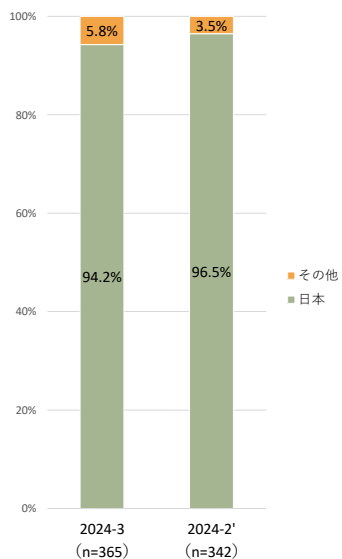
必須項目

居住地



必須項目

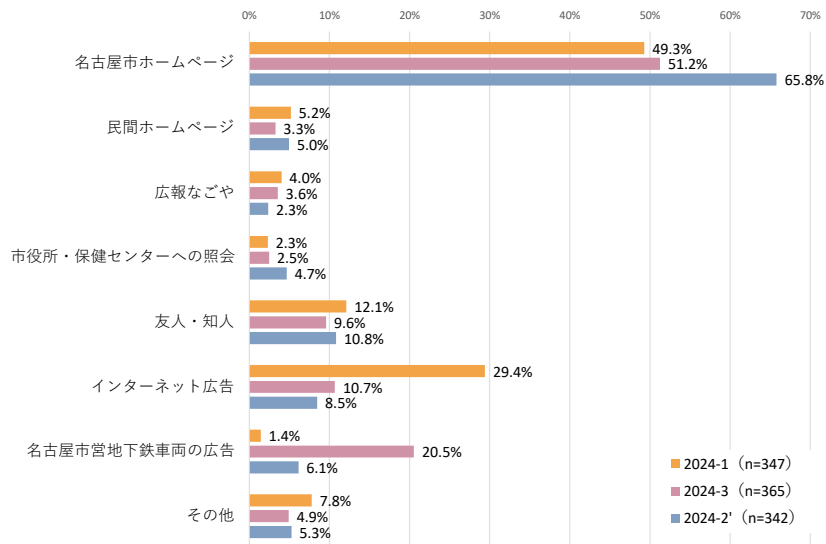
国籍



4

必須項目

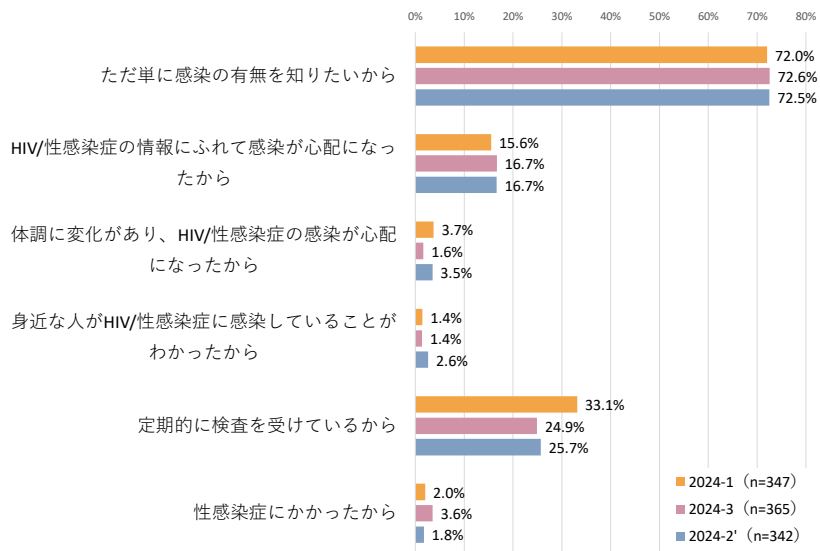
検査会をどこで知ったか（複数回答）



5

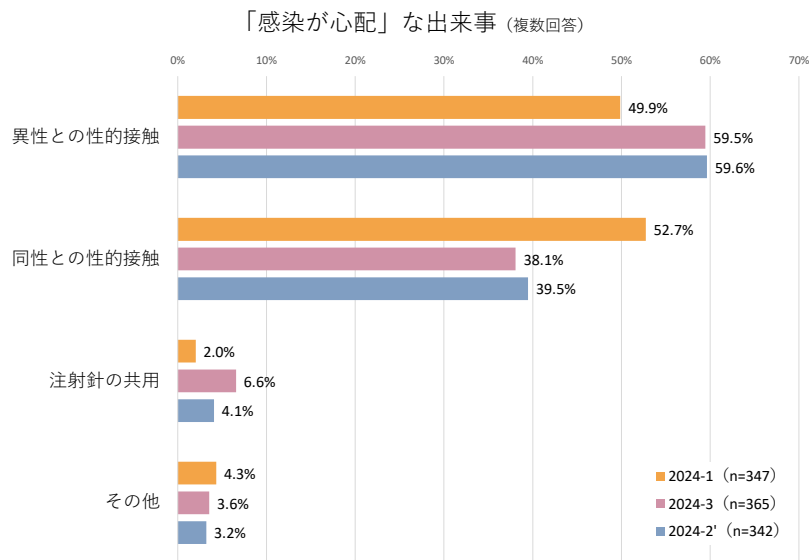
必須項目

受検理由（複数回答）



6

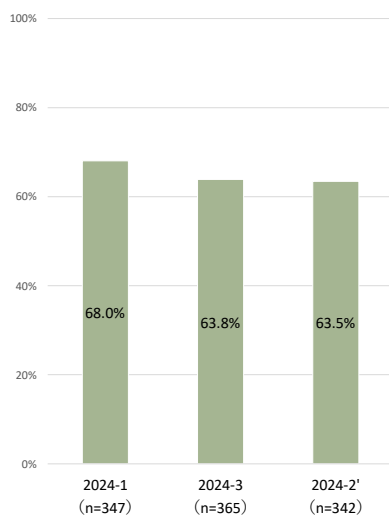
必須項目



7

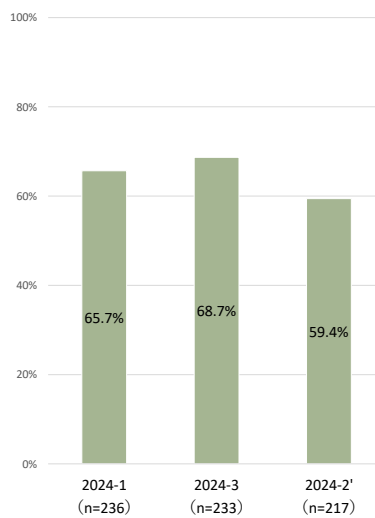
必須項目

これまでのHIV/性感染症検査
の受検経験



必須項目

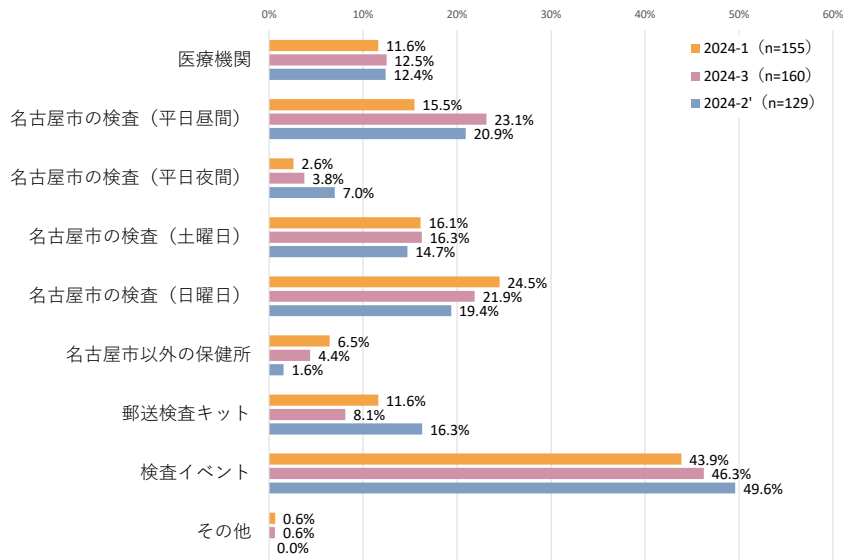
この1年間のHIV/性感染症検査の
受検経験（受検経験ある人のみ対象）



8

必須項目

この1年間の受検場所（この1年間に受検経験ある人のみ対象）（複数回答）

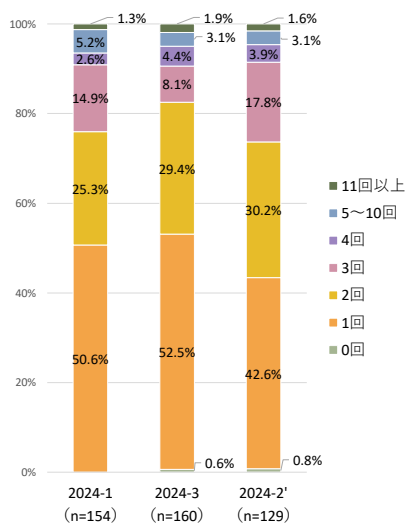


9

必須項目

これまでの受検回数

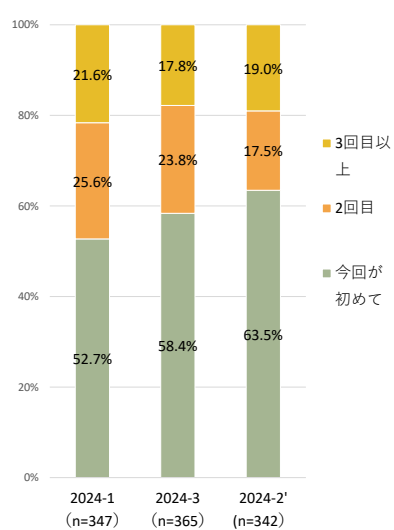
（この1年間に受検経験ある人のみ対象）



必須項目

2022年6月以降のiTesting無料検査

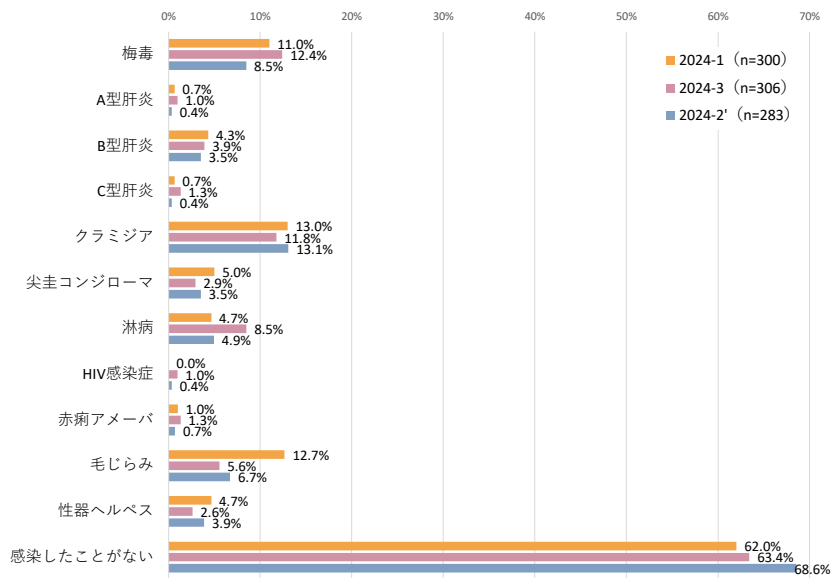
査の受検回数



10

任意項目

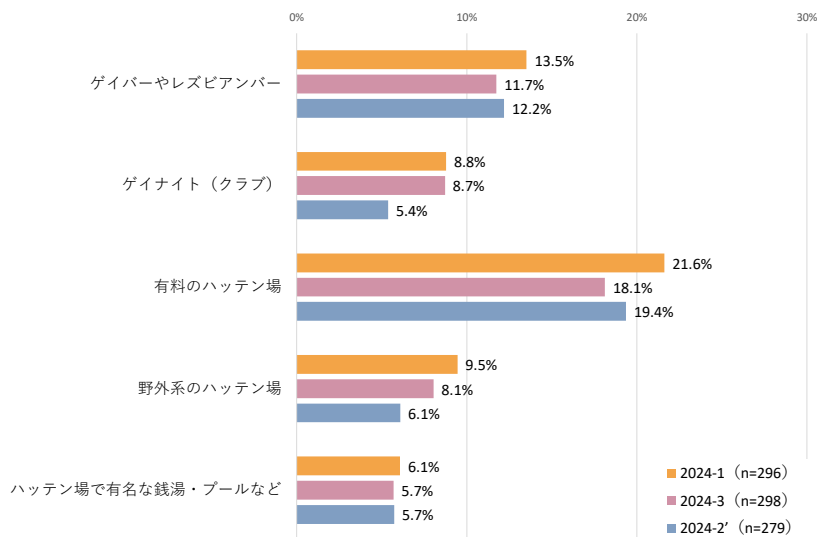
感染したことがある性感染症（複数回答）



11

任意項目

過去6か月間に利用した施設等（複数回答）



12

任意項目

